

2025年ビキニデー報告と感想

メインスローガン「被爆80年、2025年を核兵器のない世界、非核平和の日本への転換の年に」

2025年3月8日（土） 加藤

【日程・会場等】

・1日目；2/27（木）14時～16時30分

【国際交流会議】グランシップ静岡・11階会議ホール

*参加者120人

・2日目；2/28（金）13時～15時

グランシップ静岡・1階中ホール

【2025年3・1ビキニデー】

日本原水協全国集会/同・分科会*参加者約1,000人

・3日目；3/1（土）9時15分 焼津駅南口前・集合/出発

10時30分～11時30分 弘徳院

【献花墓参平和行進久・保山愛吉墓前祭】

【被災71年 2025年3・1ビキニデー集会】

13時～15時30分 焼津市文化センター大ホール

*参加者1,300人+オンライン参加500人 計1,800人
(因みに、神奈川から約80人、川崎から10人)

【1日目・2/27（木）国際交流会議】

テーマ「核兵器のない世界、被爆80年からNPT再検討会議へ」

<海外代表4人と日本人1人>

☆ジョセフ・ガソン氏（アメリカ/平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン議長）

☆ロラン・ニベ氏（フランス平和運動）

☆イ・ジュンキョ氏（韓国/韓神大学客員研究員）

☆マリベル・エルナンデス氏（スペイン核軍縮同盟）

☆土田 弥生氏（日本原水協事務局次長）

【感想】

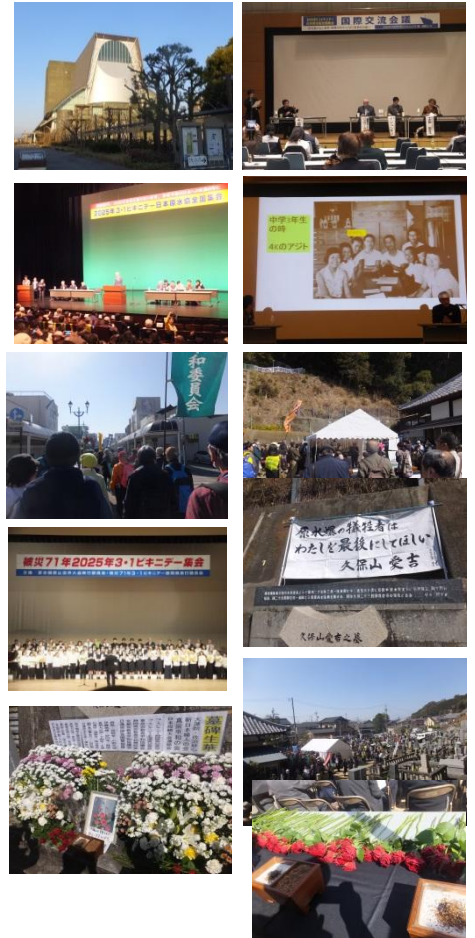
⇒独裁者トランプとそれを取り巻く億万長者たちの利権優先で、世界中に害悪をまき散らしていることや韓国のユン大統領は北朝鮮に戦争を誘発させて、「戒厳令」を実行しようとしていたこと、同時に、「戒厳宣言」を阻止したのは韓国の保守化されていると言われていた若者の力、特に女性の力に、勇気を感じる。また、ノーベル平和賞受賞後、被団協の田中重光さんのフランスとスペインの遊説で、受賞は運動を後押ししていると実感。核廃絶の運動（議論）は、非常に政治的色彩が濃く、一般の人には取っつき難い。また、各国のトップの言動や動向を知る必要もあるので、世界情勢を知る必要があるなとも思った。我々は地域で草の根でやるしかないとも思う。被団協のように。被団協の不断の取組が、活動そのものが、ノーベル賞となったのだから。

【2日目・2/28（金）】

<日本原水協全国集会・全体集会> *約1000人参加

【感想】

⇒各地、各団体の取り組みは、自治体で言えば山梨や長野、福井や兵庫、長崎、広島が活発なのか、団体で言えば土建、新婦人、そして、やっているところは創意工夫していると感じた



<日本原水協全国集会・分科会> グランシップ 11 階会議ホール

『第 6 分科会』テーマ「原水爆禁止運動の継承を－入門編－」

[感想]

⇒杉村征郎（すぎむら いくお）さんのビキニ事件後の署名運動の取り組みに衝撃でした。焼津では、一旦広がった署名の取り組みが、アカ攻撃によって、取り組みがしぼむ。その後、杉村さんと友達 2 人で始めた署名の取り組みで、再び広がったのが原点だと言っていました。また、全体会場でも、かつて署名運動は杉並区の魚屋さんのお母さんから始まったと報告され、同時発生的に、署名の取り組みが始まったと知りました。

【3 日目・3/1（土）】

<献花墓参平和行進>

・行進は、焼津駅南口を出て歩道橋を渡り、焼津商店街入口から焼津漁港をめざし、途中、漁港の町を通過して、弘徳院を目指しました。数百メートルの行列で、各県原水協、各労組、宗教者、新婦人、建設（土建）、民医連、医療生協、民商、コープなどのぼり旗がたなびき行進。弘徳院近くで、途中、各人赤いバラ 1 本購入し、弘徳院を目指しました。時間にして、約 1 時間超の工程。

<久保山愛吉墓前祭>

・献花墓参平和行進は実行委員会と宗平協（日本宗教者平和協議会）の主催だが、墓前祭は宗平協の主催で行われていました。

<被災 71 年 2025 年 3・1 ビキニデー集会>

※静岡新聞（3/1 付）より、原水協の集会と共に、原水禁、葵区・静岡労政会館にて集会を開催と掲載。

[感想]

⇒一人ひとりの報告、発言に力強さと真面目さと真剣さ、エネルギーがみなぎっていました。圧倒されました。

発言・報告の随所で、若者にバトンタッチを、次の世代に、という言葉を見ました。このビキニデーに行く前に、鶴見で行われた「ノーベル平和賞受賞式報告集会」での和田征子さんの言葉「今日の聞き手は、明日の話し手。聞いて話す方の責任において伝えてほしい。」と語っていました。聞いたこと、知ったこと、私自身の責任で、伝えていければと思っています。また、10 年後被爆者はほとんどいなくなり、いても数人、その数人が話せるかとも言われていました。また、集会では、久保山愛吉さんの奥様からのメッセージだったか、お手紙だったか、「これまでの皆様からの励ましに、ありがとうございます。核廃絶が先か、私が先かと、思いながら生きてきました。核廃絶を見ないうち先に行けないと思ってきましたが、どうも、私の方が先に行きそうです。皆様核廃絶を最後までよろしく願います。」と代読され、胸に刻みました。今からでも、それらを受け止めた人たちが、身近な今自分自身の出来ることで、やって行くしかないのかなと思っています。ありがとうございました。

以上



ビキニデーに参加しての感想

2025年3月8日 井手

私は、医療生協宿河原支部の運営委員です。担当は平和委員です。このたびは、私を被爆・戦後80年にあたるビキニデーへの代表派遣をしていただき、ありがとうございました。引率をしてくださった健まちの松田さんが、いろいろと気配りをしていただき、安心して臨むことができ感謝しております。

私は、初めての参加でしたので、いろんなことを学びました。71年前日本国民はアメリカのビキニ水爆実験に抗議し、核実験即時中止と原水爆の禁止を求めて署名行動に立ち上がりました。9月13日の久保山愛吉さんの死で、国民の怒りはさらに高まり、署名の数は10月には1千万、年末には2千万、翌年8月の広島原水爆禁止世界大会の開会では3158万に達しました。原水爆禁止運動を誕生させ、広島・長崎の被爆者とともに、核兵器全面禁止・廃絶の世界的流れをつくり出してきたことなどです。私は、28日の全体集会の次に開催された分科会の入門編に出席したのですが、この中で、特に印象に残ったのは、第一部での現在84歳になられる杉村征郎さんのお話でした。ビキニ事件当時、杉村さんは中学生でしたが、近くの中学校の中学生と2人で、核実験中止と原水爆禁止の署名をつくり集めていったそうです。杉並の魚屋さんが、署名を広げていったことは、知っていましたが。親から子供がそんなことはするなといわれても、ひるむことなく署名集めをしたそうです。感激しました。

第2部では、記録映画「生きていてよかった」を観ました。(48分) 私は、はじめて観た映画でした。ケロイドを隠すための手術を何回もしながら働く若い女性、原爆孤児たちが、力を合わせて生き抜いてゆくなどなど大変な困難を抱えながらも生きてよかったことを表現し、反核を訴える映画でした。心に残る映画でした。28日の全国集会・全体集会の後、全国各地の代表による草の根の運動交流がありましたが、被団協のノーベル平和賞で幅広い市民が多数参加し、従来の枠を超えての共同が広がっているのが垣間見られました。これらを聞いて、私は元気をもらいました。

与党の過半割れという総選挙の結果、石破総理の戦争国家路線を阻止し「核抑止」論から脱却し、核兵器禁止条約に署名・批准する政治に転換する可能性が開かれつつあります。これを切り開くカギは世論と運動、国民的共同の発展にあるとのこと。

合言葉「非核日本キャンペーンを大運動に」が提起されました。

それは、核兵器の非人道性を知らせ、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める「ビキニ被災70周年から被爆80年へ非核の日本を目指すキャンペーンを」成功させること 被団協のノーベル平和賞を力に日本政府に核兵器禁止条約署名と批准を求める署名を広範な人々に広げてゆくこと 私は、微力ですが医療生協の組合員や地域の人と力を合わせ、この運動に取り組んでゆかねばと思いました。以上

2025 3・1ビキニデー(2/28,3/1)

赤石(川崎医療生協多摩支部)

「非核日本キャンペーン」を草の根で

昨年の、原水禁世界大会に続き、私は今回のビキニデーも、初参加でした。戦後80年という節目に向けて、貴重な機会を与えていただいたことに感謝します。同時に、「核はいらない」「戦争はさせない」という人類共通の思いを、地域や国、人種や世代を超えて連帯し、より強く大きなうねりにしていかなければならない、その決意を固めています。方法、可能性はたくさんあると思います。医療生協の活動もそのひとつで、子どもから高齢者まで、幅広くアクセスできる場でもあると再認識しました。今後の運営委員活動にも、平和視点を意識したいと思います。今集会で打ち出された「非核日本キャンペーン」を草の根で広げ、日本の核禁条約批准へと、一歩進める2025年になりますように。

■28日、日本原水協全国集会・分科会

第2分科会「非核平和の日本とアジアを一軍事同盟強化反対、「核抑止力」論を打ち破ろう!」から学んだこと

「核抑止論」をどうしたら論破できるかは、私の大きなテーマで、ヒントや答えを得たいと、この分科会を選択しました。会場はほぼ満席、107名の参加者でした。

千坂純氏(日本平和委員会事務局長)の基調報告に続き、海外代表として参加の、ハム・ジェキュ氏(韓国/民主労総副委員長)、ジョゼフ・ガソン氏(アメリカ/平和・軍拡・共通安全保障キャンペーン議長)の訴え、後半は全国各地からの発言・報告があり、神奈川県からは神奈川平和委員会・事務局長の家子寿氏が、厚木、横須賀、横浜などでの民間活用での基地強化について、新たな軍事産業研究や日米安保の学習の大切さ等について発言しました。

全体を通して、日本ではいま、すさまじいスピードで戦争する国づくりが進んでいることに驚愕しました。千坂氏は、日本政府が「拡大抑止ガイドライン」の改定で、有事の際の米の核使用について意思疎通する仕組み、三沢や嘉手納基地等で核の持ち込みを可能とする動きを指摘。愛知県に一大軍事産業集積地が築かれている現実、小牧市では三菱重工がイギリス、イタリアと次期戦闘機の共同開発を本格化しようとしているそうです。核兵器積載艦艇の入港を許さない非核「神戸方式」で頑張る兵庫県からは、非核の催しの後援を神戸市教育委員会が降りる、という逆流も報告されました。日米韓豪ほか、多国籍軍の合同演習も頻繁に実施されている報告も相次ぎました。日本の大軍拡と、核兵器への歩み寄りを何としても止めねばならないと思います。

また、韓国、ハム・ジェキュ氏は尹大統領の弾劾でも運動の中心的存在ですが、「韓国と日本の民主主義の違い」についての質問に、教育のありかたに言及。「韓国では学校教育で民主主義や憲法についてしっかり学んでいる。今回の戒厳令

がそれに反することは中学生でも理解するし、違法ならば声を挙げて、行動することが当たり前」だそうです。安倍政権が敷いてきた教育政策のしたたかさを感じ、ゾッとしますが、学校で教えないなら、在野で子どもたちに広げる取り組みが益々大切だと思いました。

■1日、被災71年 2025年3・1ビキニデー

焼津駅前から1000名以上(この日の集会参加者公式発表は1800人)もの人々が、所属団体ののぼりやプラカード、久保山愛吉さんに捧げるバラの花などを持って行進する「献花墓参平和行進」。ゆっくりと小一時間かけて、墓所のある弘徳院まで、途中、漁船が停泊する焼津港を臨み、のどかな漁師町を歩きました。美しく、静かな海を眺めていると、なんとも言えない気持ちになります。この日常が、一瞬にして奪われる理不尽。それが71年前のビキニ事件です。ビキニだけではありません。広島、長崎、そして福島。すべての被災者が、なぜ幸せに生きる権利を奪われなければならなかったか。

被ばくの実相を語り継ぐ日本被団協の活動がノーベル平和賞を受賞したことは、希望です。この実相こそが、非核の理由を何よりも物語っているからです。それに共感する理性が、世界中のそこそこに存在しています。ともに歩きながら、非核平和への決意をかみしめました。

2025年3・1ビキニデー報告書

健康まちづくり推進部 松田

【概要】

- 2月28日、3・1ビキニデー全国集会(静岡市)／3月1日、久保山愛吉氏墓参行進・墓前祭及び集会
- 川崎医療生活協同組合から加藤さん(大師地域理事)、井手さん(宿河原支部)、赤石さん(多摩支部)と4人で参加。

【報告】

28日の全体集会は約1000人(うちオンライン約400人)が参加。

ウクライナ戦争によって核抑止論が強まり、核兵器廃絶の流れが逆行している情勢等、海外代表の発言が印象深かった。各地の運動交流では、厳しい情勢の一方で、「ノーベル平和賞受賞」を最大限活用し、草の根の廃絶運動を次世代に継承する必要性が特に強調された。例として、▽埼玉土建は建設職人として「平和な街づくり」の観点から若者への平和教育を強化。▽福井県新婦人では、原爆パネル展や高校生が描いた原爆の絵を活用し、市民の意識向上に努力。▽長野県原水協では、被爆者証言の冊子化プロジェクトを進め、クラウドファンディングを活用し、県内の学校に寄贈する計画——が紹介された。

分科会は7つあるうちの⑤「原発ゼロ、気候危機打開、地球環境を守ろう」に参加した。原水爆被災と共通する国の無責任体質に問題を感じていたため、分科会参加者72人のうち集会初参加が41人ということからも関心の高さがうかがえた。

報告者からは、▽浜岡原発は東海地震の震源域の真上に位置し、世界で最も危険な原発なのに、石破政権は原発の再稼働を進めている。▽原発や化石燃料の使用は環境・社会問題を引き起こす一方、日本は地熱や風力の資源が豊富で再生可能エネルギー推進が可能。電力は地産地消が重要で大手電力会社の独占や送電ロスが問題。早急な転換が求められる——。会場発言では、▽福島原発事故をめぐって国の責任を認めようとしめない数々の不当判決——の問題が訴えられた。

対して、1954年の第五福竜丸事件では当時、「琵琶湖にインク1滴を落としたようなものだ」と言われていたが、海洋から高濃度の放射能汚染が検出された。日本と米国は見舞金支払いで幕引きを図り、日本は米国の責任を追及しなかった。1日の集会特別企画「核の被害の評価、補償と救済、核兵器の全面禁止」でも、元乗組員で存命者は唯一1人のみとなっている第五福竜丸事件の被害者救済や、長崎の「黒い雨」被害者の被爆者認定問題など、核被害が隠蔽・放置される現状が報告された。核兵器禁止条約(TPNW)へのオブザーバー参加を拒否したうえ、原発事故の教訓を無視し、無責任に再稼働を進める政治の体質は、70年以上経たいまも何ら変わっていないことに深い憤りを感じた。

私個人は「全国集会」自体に初参加。子どもたちの未来を守るおとなの責任を改めて痛感する場となり、こうした機会を与えてもらったことに感謝します。その一方、各種発言を聞いていても「話の内容が難しい」というのが率直な感想だった。これをどう地域の若者や子どもたちに伝えていくか、工夫と模索を続けてみたい。

以上